

# 日本の知力

## 門を開け町へ出よう

校歌にうたわれる「都の西北 早稲田の森」が、教育、医療の森に変わる――。早稲田大学がこんな構想を進めている。大学と周囲を隔てるコンクリート塀の一部を壊し、周辺緑地とつなげて、都心に広大な森を作ろうというもので、今春には理工学部と戸山公園の間の塀の一部を取り壊し、往來可能にした。

提案者の後藤春彦・早大教授は「町は大学の学びの場になり、大学は町の魅力になるというのが本来の関係。これからは学生のため

### 8 大学で考える 第3部

の『学生街』ではなく、あらゆる人に開放された『大学都市』を作らなければいけない」と話す。立地をフル活用し、大学と地域を活性化させる試みだ。

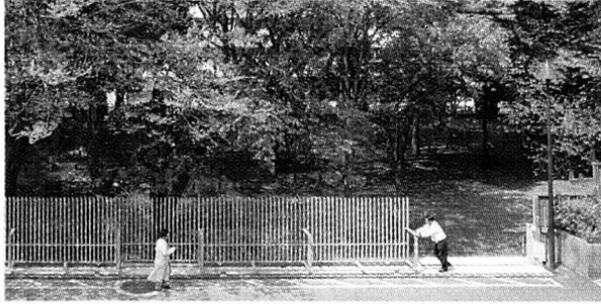
東京・板橋区の大東文化大学は、近くの高島平団地と共闘を始めた。

高度成長期のマンモス団地も、住人が高齢化し、空き室が増えた。大学はここに学生を入居させることにしたのだ。学生が団地の独居老人の訪問など地域活動をすれば、「サンク」と呼ばれる地域通貨が与え

られ、家賃支払いに使える。計画を進める山本孝則・大東文化大学教授は、「団地は高齢化で早晚持続できなくなるし、大学も全入時代の荒波を受け、単独では未来はない」とし、大学と地域社会の融合で新たな可能性を開きたいと語る。

米欧の大学は、立地を生かすことに、より積極的だ。地域再生だけでなく、同地域の大学が学術協力まで踏み込んで、「地域で学際」を実現した例もある。

米ファイラデルフィア市にあるペンシルベニア大学の場合、1990年代に周辺地域がスラム化して、学生が住まなくなったため、大



学自らが住宅建設など本格的な地域再開発に着手し、周辺環境を一変させた。研究者による非行や貧困の実態分析も行われ、大学と行政との協力も進んだ。フランス・パリ郊外にある「デカルト・シティー」は、異なる個性の大学が集まることで、理想的な融合を引き出した。

日米の研究事情に通じた、石井裕・米マサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボ副所長は、「大学は知を生み出すエンジンであり、新しい知の体系を創造するために存在している。大学だからこそ、目の利益を求めないのでなく、新しいビジョンを創造し続けるため、エネルギーを持続したい」と言う。

デカルト・シティー  
パリ東郊に1983年に作られた。現在は敷地1500ha、学生数約1万5000人。仏生まれの哲学者ルネ・デカルトにちなむ。

大学と企業、地域社会、学問と学問の融合も、そうした営みであり、ここから新しい価値体系も生まれてくるだろう。

(2面にインタビュー)

塀が取り除かれた早稲田大学大久保キャンパスの通用門(東京・新宿区) 〓平博之撮影

# 日本の知力

<1面続き>

## 地域と同じ目線が大切

支援なしではやっていけない」という認識がある。

また、大学の研究者が、地域社会の問題を自分の研究テーマに選んだり、研究成果を基に政策提言することも少なくない。こうしたことができるの

### 識者に聞く

慶応大学教授

わたなべ やすし 渡辺 靖 氏

は、大学の教員、研究者が実際にその地域に住み、住民と全く同じ目線で、その地域の問題に接しているからだ。米国の大学街のほとんどは、魅力的な住環境を持っており、大学教職員はそこに快適に暮らす。

日本の場合、地方大学でさえ、多くの教員はその場所に住んでおらず、授業のある時に通ってくるというケースが目立つ。実際に居住していない大学人が、その地域に住む人々と、問題意識を共有するのは難しいだろう。大都市郊外に立地する大学では、周辺に何もなく、学生も教員も授業が終われば一直線で帰ってしまう。これでは、大学と地域の融合は進まず、大学は立地を生かせない。

米国のオルフェウス室内管弦楽団は、指揮者がいないオーケストラだが、高い技能を持った個々人が見事な音の融合を作り出している。核になる学問を持ったもの同士が高いレベルで融合を実現する——それが学際

「学際」というと、難しく考えられがちだが、異なる専門を持つもの同士が、相手の思考の枠組みや、学問的アプローチに触れ、それによって自分たちの思考を深めていくというのが基本だ。米国の大学では、学

問の幅は格段に広まる。ただ、米国でも、「学際」は実際にどれだけ成果はあるのか?と常に問われるほどで、簡単に結果が出るものではない。

アメリカでは、住民たちが自分たちのコミュニティを開拓していった歴史があり、地域社会と大学との結び付きは、日本よりはるかに古く、かつ進んでいる。ハーバード大学やペンシルベニア大学といった巨大な大学は、学生の住居を確保するため、地域の住宅開発や住宅政策にまで踏み込んで、行政との連携を進めている。地域社会には「私たちの大学」という意識が強く、大学側には「地域の



1967年北海道生まれ。米ハーバード大学で博士号取得。文化人類学者。著書「アフター・アメリカ」でサントリイ学芸賞受賞。

際

(聞き手・伊熊幹雄)